

「我が家のようにくつろげる場所、HOME—シンガポールで働く移民労働者のための社会支援ネットワーク」

グロリア・ロザナウ（シンガポール）

彼女たちは皆、それぞれに悲しい生い立ちを持っています。聞いてみれば、ある者はやってもいない盗みの罪で告発されたと話し、またある者はたびたび食事を与えられず女主人にぶたれたと打ち明け、さらにある者はどんな風にだまされて売春させられたか話すことでしょう。深く聞けば聞くほど、さらに多くの悲劇が浮かび上がってくるはずですが、しかし、聞こうとする人はまずいません。心配する人となるとなればおさらです。「彼女たち」は結局のところ、外国人で身分の低い社会ののけ者、ただのメイドにすぎないのです。

外国人メイドは他の移民労働者同様、社会の本流にいる者たちからこのような差別的な待遇を受けやすい立場にいます。極端な話、雇い主から虐待されたり、酷使されたりするのは珍しいことではないのです。その状況を悪化させているのが、同情的に話や悩みを聞いてくれる人がいないことで、悲劇的な結末につながる行動へ彼女たちを追いやる結果になります。このような状況を反映して、シンガポールではここ数年、死亡事件（メイドの自殺や他殺、またはメイドによる雇い主の殺害）が増えています。

こういった事件が飛躍的に増加している状況に対して、シンガポール人のブリジット・ルーが「シンガポールに世界中の家族を歓迎する文化を培う」ことを買って出ました。彼女の構想は、中国とインドからの移民を祖先にもつ国家であるシンガポールが、現代の移民を温かく迎え、皆の心の故郷となることです。こうして 2004 年、平凡な女性が運営する慈善組織、HOME（移民経済人道組織）が誕生しました。

その後数年で、HOME はたちまちシンガポールで悲嘆にくれる移民にとっての緊急相談所としての地位を確立しました。相談者の多くは、当局や仲間の移民労働者から HOME のことを教えられた、外国人の家庭内労働者や、建設作業員、不法な性産業労働者などです。虐待する雇い主から逃れてきたり、犯罪容疑で裁判にかけられたりしている人たちがほとんどです。HOME が運営するシェルターで正義が明らかにされるのを期待して、移民たちは辛抱強く（数か月から 1 年近く）待つことになります。

しかし、そういったことは「グロトー（洞穴）」を垣間見ただけではわかりません。見ることができるのは、20 人ほどの若くて元気で快活な女性（グロトーによっては男性もいます）が手工芸や、生け花、ダンス、歌、お祈りなどを行っているところでしょう。時々手を止めては談笑し、自分たちだけの秘密を分かち合うかのようにクスクス笑ったりもします。タガログ語の挨拶にマレー語で返されるかと思えば、その会話に 1 つ 2 つ、タイ語の表現

が紛れ込むこともあります。けれどもここでは、言語の違いから意思疎通が行き詰ったことなど1度もありません。むしろ、これは「HOMEの地球家族」の連帯を証明するものです。

HOMEの究極の目的は、シンガポールにある他の多くのボランティア福祉組織や宗教団体同様、これらの移民労働者に能力をつけさせ、移民労働者同士のネットワーク作りの機会を提供することです。その結果、シンガポールの移民労働者たちは団結して自分たちの支援ネットワークを形成しました。このような取り組みは、移民の出身国の大使館からの支援もたびたび受けて進められています。

例えば、インド・ファミリー (Indo Family) はインドネシア人の家庭内労働者の1人で、シンガポールで8年間働いているナリファ・ラシディさんが考え出したものです。この組織は、国籍にかかわらず、シンガポールに在住する移民労働者仲間（言語や文化による結びつきのせいで、インドネシア人労働者が主体となってはいますが）を対象に、週末に24時間のヘルプ・ラインを運営しています。その「方法」は、シンガポールで何年も実務経験がある「先輩」メードが「後輩」メードに、電話で無料カウンセリングやアドバイスを提供するというものです。また、必要があれば、関連組織および当局への取次ぎも行います。

HOMEは、対象が移民労働者に限られてはいますが、シンガポールにおける女性による女性のためのコミュニティ・サービスのほんの1例です。こういった組織をすべて列挙しようとするれば、気の遠くなるような長いものになるでしょう。しかし、こういった組織の崇高な意志は共通しています。その意志とは、コミュニティの中の、力を奪われた人たちを、宗教、国籍、階級に関係なくエンパワーすることです。インド・ファミリーのような「移民による移民のための」組織や、その他の同種の支援ネットワークが生まれてきているということこそ、エンパワーメントされているという証拠です。コミュニティ・サービスの現場でさらにこのような心温まる進展があれば、シンガポールの移民労働者たちもこの国で真に歓迎されていると感ずることができるようになるでしょう。